【実践報告】

初年次教育授業「自立と体験 1」における学習意欲を高める取り組み（2）
― 担当教員からの動機づけに着目して ―

鈴　木　浩　子※

1. はじめに

明星大学で 2010 年度より実施している全学初年次教育「自立と体験 1」は、少人数クラスによるアクティブラーニング型授業であり、学生の学習意欲が授業効果に大きく影響する。一方必修科目として全 1 年生が受講するため、学生の学習意欲は多様である。

多数の教員によって実施される授業の質を揃えるための共通教案に見られる「学生の学習意欲を高める取り組み」については、ケラー（2010）による、学習意欲に関連する概念「ARCS モデル」によって分析し、多くの工夫が用いられていることを検証した（鈴木 2015a）。またここでは、授業の特徴上、担当教員個々の工夫、教員からの働きかけ、声掛け等の影響が大きいことから、教員のファシリテーションの方法についても明らかにする必要を指摘した。このファシリテーターとしての教員について鈴木（2015b）は、「教師は、学習内容に加えて、学習者の活動の仕方や、それを支援する道具立て、学習者が参加する共同体の構成を点検します。教師は、授業を設計するデザイナーであり、教室で授業を進める指導者であると同時に、子供たちのコミュニケーションを促すファシリテーターでもある」と述べている。

本稿では、ファシリテーターとしての教員が共通教案での授業を行う際に、どのような工夫を行っていたのかについて、考察を行う。

2. 授業概要と共通教案

「自立と体験 1」15 回の授業内容は表 1 のとおりである。70 弱のクラスは、各学部の専任教員が中心に担当し、授業の進め方については、共通教案を作成し、事前説明会で担当教員に説明・配付している。共通教案（資料 1）は、各回授業について見開き 2 ページに、①〈学生向け〉授業のねらい、②今日の授業内容、③〈教員向け〉学生に習得してほしいこと、④時間配分と進め方、⑤教員用解説ページ（セッションごとの意図、進め方例）が記載されている。また授業運営におけるヒント（資料 2）も掲載し、教員が授業を進め

表 1. 平成 27 年度「自立と体験 1」授業内容

第一節 人と関わる	1	オリエンテーション
	2	新しい環境で他者と出会う
	3	大学での学びを考える
	4	聴いて相手を理解する（1）
	5	聴いて相手を理解する（2）
第二節 人と関わる・学びのスタートを切る （ローテーション授業）	6	明星大学を知る
	7	明星大学を紹介する
	8	図書館にふれる
	9	大学職員に取材する
	10	自分や相手の大切さを知る
	11	ルールとマナーを考える
第三節 大学生活を見通す	12	卒業生から学ぶ
	13	仕事と自分について考える
	14	これからの大学生活を描く
	15	未来の自分へのメッセージ

※ 明星教育センター　特任准教授

るうえで参考にできるようにしている。一方、教案の活用方法については、次のような説明を記載している。共通の教案ではあるが、個々の教員の工夫を前提としている。

■教案の活用方法について

「自立と体験 1」は、体験学習、協同学習の考え方を基本に進める授業ですので、すべてのクラス、すべての学生に同じ方法で対応できるものではありません。「今ここにある」学生たちの状況に合わせて、授業を進めていただくことが基本です。

この教案には、授業のねらいや意図、標準の進め方を記載しました。平成 26 年度までの実施の経験を活かして作成した方法ですので、まずはこの方法で授業を進めていただき、必要があれば状況に合わせて工夫いただければと存じます。ご不明な点は遠慮なくお問い合わせください。よろしくお願いいたします。

3. 分析方法

3-1. ファシリテーターとしての教員の工夫

共通教案をもとに、担当教員がどのような工夫を行ったかを知る方法としては、①ランチミーティングでの意見の共有、②グループリーダーへの情報共有、③終了時アンケートがある。①については、毎週金曜日 1・2 限の授業終了後の昼休みに、担当教員が参加できるランチミーティングを第 2 回授業から毎回開催した。参加者は平均して 10 名前後であったが、毎回 a. 授業実施の感想、b. 授業実施上の工夫、c. 質問・確認したいことの 3 点についてポストイットを用いて共有した。②のグループリーダーは、各学科の専任教員に対して「自立と体験 1」を運営する明星教育センターの特任教員がサポート役を担当しており、必要に応じて疑問点解消や現状把握等を行った。

ランチミーティングで「授業実施上の進め方の工夫」として出された意見は、全 14 回で 146 件であった。各回ごとの件数は、表 2 のとおりである。1 人 1 ～ 2 枚のポストイットを記載する参加教員が多かった。意見の詳細は（資料 3）に示す。

表 2　授業回ごとの工夫件数

授業回	工夫の件数
2	14
3	16
4	11
5	14
6	11
7	7
8	7
9	9
10	11
11	12
12	8
13	11
14	10
15	5
合計	146

3-2. 意欲付けの意図による分析

教員の「進め方の工夫」から、純粋に時間管理のため（授業時間内に予定の授業内容を終えるため）と解釈されるものを除き、それ以外のものの意図を ARCS モデル（ケラー 2010）で分類した。鈴木（2015b）は、この 4 要因を「おもしろそうだな」⇒「やりがいがありそうだな」⇒「やればできそうだな」⇒「やってよかったな」という学習意欲の流れにまとめている。ARCS モデルの分類枠・定義・下位分類を表 3 に示した。

表 3. ARCS モデルの分類枠・定義・下位分類

主分類枠	定義	下位分類
注意（Attention）	【おもしろそうだな】学習者の関心を獲得する。学ぶ好奇心を刺激する。	A1 知覚的喚起 A2 探究心の喚起 A3 変化性
関連性（Relevance）	【やりがいがありそうだな】学習者の肯定的な態度に作用する個人的ニーズやゴールを満たす。	R1 目的指向性 R2 動機との一致 R3 親しみやすさ
自信（Confidence）	【やればできそうだな】学習者が成功できること、また成功は自分たちの工夫次第であることを確信・実感するための助けをする。	C1 学習要件 C2 成功の機会 C3 個人的なコントロール
満足感（Satisfaction）	【やってよかったな】（内的と外的）報償によって達成を強化する。	S1 自然な結果 S2 肯定的な結果 S3 公平さ

分類にあたっては、ポストイットに記載されている文章・フレーズ・キーワードから判断できる意図を用いたため、記述者本人の意図が正確に捉えられているとは限らない。また要因は1つに決められるわけではなく複数の可能性が考えられるが、便宜上もっとも当てはまると思われる要因1つに絞って分類した。このように正確に1つの結果を出すことは難しいと判断したため、分類は（資料3）のとおり下位分類尺度を用いて行ったが、分析は主分類枠で行うこととした。

4. 結果と考察

授業回ごとの「進め方の工夫」を主分類枠で分類した結果は、表4の通りである。

また、15回の授業は内容のまとまりで3つの節に分かれている。その節ごとの数を見ると、第一節はA19、R15、C11、S5、第二節はA20、R18、C9、S3、第三節はA12、R13、C8、S1であった。各節ごとの取り上げている授業の回数が異なる（第一節4回、第二節6回、第三節4回）ため、単純に比較することは出来ないが、ARCSを多い順に並べると、第一節と第二節はARCS、第三節のみRACSとなった。

表4 授業回ごとの進め方の工夫

回	工夫	A	R	C	S
2	13	7	5	0	1
3	14	4	7	2	1
4	10	4	2	1	3
5	13	4	1	8	0
6	9	6	0	2	1
7	7	3	2	1	1
8	7	2	2	3	0
9	7	1	3	2	1
10	9	4	4	1	0
11	11	4	7	0	0
12	8	4	3	1	0
13	11	5	2	3	1
14	10	3	5	2	0
15	5	0	3	2	0
計	134	51	46	28	9

ARCSは、従来の知見からまとめられた学習意欲の4つの要因であると同時に、学習意欲の流れでもある。鈴木（2015b）は、「まず面白そうだ、何かありそうだという『注意』の側面にひかれ」「次に、学習課題が何であるかを知り、やりがいがありそうだ、自分の価値観との関わりが見えてきたという『関連性』の側面に気づき」「成功の体験を重ね、それが自分の努力に帰属できれば、やればできるという『自信』の側面が刺激され」「学習を振り返り、努力が実を結び、やってよかったとの『満足感』が得られれば、次の意欲につながって」いくと述べている。

今回の分析の結果からわかることは2点ある。

1点目は授業回の進展に伴って、担当教員からの働きかけの重点が「注意」⇒「関連性」⇒「自信」へと移行しているようだという点である。これが、学生の学習意欲が変化しているための移行なのか、担当教員が意識的に働きかけの重点を移していっているのかは分からない。しかし、授業が進むにしたがって学習が深まっている様子は垣間見える。

2点目は、授業全体を通して「満足感」に関する働きかけが少ないという点である。これは1年生前期の初年次授業だということが理由であるのかもしれない。半期では学生の学習意欲を育てるには短すぎるという可能性も考えられる。しかし「満足感」が次の意欲につながっていくことを考えると、学生が自律的な学習者になるために何らかの働きかけを工夫することは必要なことだと考えられる。本稿では、担当教員からの動機づけの働きかけを分析したが、授業の内容そのものに「満足感」を刺激する要因があるのかも含めて、今後の課題として検討が必要であろう。また今回データ化は出来なかったが、ARCSのどの働きかけが多いかについては、実は個人差も大きい可能性が見えてきた。個々の特性を活かして共通教案で授業を実施するためのポイントについても、今後検討していきたい。

〈参考文献〉

J. M. ケラー著／鈴木克明監訳（2010）「学習意欲をデザインする」 北大路書房

鈴木克明（2015b）「授業設計マニュアル Ver.2 ―教師のためのインストラクショナルデザイン―」 北大路書房

鈴木浩子（2015a）「初年次教育授業『自立と体験 1』における学習意欲を高める取り組み ―ARCS モデルを手掛かりに―」
明星大学明星教育センター研究紀要第 5 号

（資料 1）「自立と体験 1」担当教員用教案 2015　pp.16-17

第２回　＜新しい環境で他者と出会う＞　　2015 年 4 月 17 日（金）／18 日（土）

＜学生向け＞ 授業のねらい	・4年間でやってみたいことを考える ・学生同士、より深く関わりあって話してみる
今日の 授業内容	Ⅰ．明星大学でやってみたいこと Ⅱ．振り返り
＜教員向け＞ 学生に習得してほしいこと	・「自立と体験1」の授業の進め方に慣れる（一問一答・模造紙作成） ・グループで協力して作業をする体験をする　・大学生活について考えてみる

必要資材
ポートフォリオ 模造紙 ペン

時間	内容・進め方		
30 分	Ⅰ．今日の授業趣旨説明　＜10＞ 1）授業のねらいと内容 2）前回の振り返りまたはアイスブレイク ※第１回で「学ぶ力」自己点検を実施していない場合は、ここで実施します。	講義 発表リレー等	アイスブレイクテーマ例 「前回の振り返り」 「最近の初めて体験」
60 分	Ⅱ．明星大学でやってみたいこと＜65＞ ［個人→グループ→模造紙作成→全体］ 1）個人で考える　(5) 2）一問一答インタビュー進め方解説　(5) 3）一問一答インタビュー　(20) 4）模造紙作成の説明・進め方　(5) 5）模造紙作成　(20) 6）グループ代表者発表（10）	1）ポートフォリオ記入。考えるヒント参照 2）一問一答インタビューの進め方解説 3）一問一答インタビュー 5）模造紙作成 6）代表者発表 聴きながらポートフォリオ p.20 記入	ワーク①：明星大学でやってみたいこと p.9「一問一答インタビュー」進め方 ワーク②グループ内共有 ワーク③模造紙の作成・発表準備 ワーク④グループ代表発表 コラム参照
90 分	Ⅲ．振り返り＜15＞ ［個人→グループ］ 1）個人で記入・発表リレー 2）教員によるまとめ	1）ポートフォリオ記入 発表リレー 2）講義	ワーク⑤振り返り p.20 コラム：「深く考える習慣をつけよう」 ＊p.21「考えを伝える・話を聴く」は参考として紹介

■授業の進め方について
・クラスの学生の様子を見ながら、進めてください。時間配分は目安ですので、自由に調整いただいて結構です。発表が終わらない、または発表に入れない場合は、第3回で発表することが可能です。
・一問一答インタビューは、所要時間にグループごとの差が出ます。終了したグループは「フリートーク」をするように促してください。また10分経過したところで「半分くらい時間が過ぎました」などと伝えると目安になります。

・グループ発表後は、できる限りグループごとにコメントをしてください。発表方法については、良かった点と改善点（1～2個）を伝えていただくと次回の改善につながります。また、コメントの際などに、学生を名前で呼びかけていただくと関係構築につながります。

□各セッションの意図と進め方例　　教員用解説ページ

Ⅰ．今日の授業趣旨説明

授業開始時の進め方は、毎回共通です。前回の振り返り、アイスブレイクなどクラスの状況により自由に実施してください。

◆このセッションの意図
①授業開始の準備　→　今日の時間で何をするかについて、イメージする。
②前回の振り返りまたはアイスブレイク　→　テーマを決めて話してみることでグループで話し合う雰囲気をつくる。前回の授業とのつながりを理解する。次のセッションで取り組むことへ意識を向ける。

◆このセッションの進め方例
授業の雰囲気をつくるために、名札やポートフォリオを机の上に準備させます。ポートフォリオ p.18 の授業のねらいを示しながら、今日の授業の内容を伝えます（板書しておくと効果的です）。
第１回で振り返りの共有が終わっていなければ、グループの中で発表リレーで共有します。また「学ぶ力」自己点検が終わっていない場合も、ここで実施します。
アイスブレイクで発表リレーを行う際のテーマは自由に選んでいただいて構いませんが、たとえば前回の「体験から学ぶ」という話とつなげて、「最近初めて体験したことについて話してみよう」などと言って学生に話させることができます。

Ⅱ．明星大学でやってみたいこと

◆このセッションの意図
①自己理解　→　今の時点で「自分のやってみたいこと」を考える。
②他者理解　→　様々な考え方の違いに気づく。
③話し合いの仕方　→　一問一答インタビューの進め方を覚える／自分の考えを表現することに慣れる。
④協同作業の体験　→　グループで協力して模造紙を作成し、発表する体験をしてみる。

◆このセッションの進め方例
ポートフォリオのワーク①の欄にまず個人の考えを書かせます。記入の途中で「ポートフォリオ p.18『考えるヒント』を使い、いろいろな見方から考えて、やってみたいことを増やせないか」という質問を投げかけ、発想を広げさせます。

記入した内容を元に、一問一答インタビューを行います。初めて一問一答インタビューに取り組みますので、まずどのように進めるのか、ポートフォリオ p.9 を使い解説をしてから始めます。一問一答インタビューで話を広げ、その後、模造紙を作成する目的があることを伝えておいてください。

ポートフォリオ p.19 で模造紙作成の方法を説明し、グループで模造紙作成に取り組ませます。グループでの交流を楽しむことを意識して進めてください。自分のことを書くだけでなくお互いのコメントを書くこともできます。所要時間は 20 分程度で、テンポよく進めます。時間が不足した場合は、時間を区切って延長し、発表は次週に回します。模造紙ができ上がった順に黒板に張り出すようにしていくと、ゆっくり作業しているグループが他グループの様子に気づき、急ぐことができるので効果があります。

発表の仕方は、さまざまな指示の方法があります。全員が自分のやりたいことを一言ずつ言う方法はかなり時間が掛かります。「一問一答で共有し、模造紙を作成してみて感じたことを中心に1分程度で発表してください」と伝えて代表者に発表させる方法もあります。全員が前で話すことを優先した場合、発表が全グループ終わらなくても、第3回冒頭に続けて行うこともできます（教案 p.16 下欄参照）。

Ⅲ．振り返り

◆このセッションの意図
①振り返り　→　体験学習のステップに沿って、授業内で体験したことを言語化する。

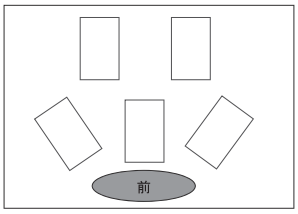
ポートフォリオのワーク⑤を記入させ、グループ内で共有します。
教員によるまとめは、p.20 コラム「深く考える習慣をつけよう」を使って、話し合うことの意味などをお伝えください。
p.21「考えを伝える・話を聴く」は、今日の授業の体験をさらに深く学びたい学生のために入れてあります。ご説明いただく時間はとれないかと思いますので、「興味のある人は是非読んでおくように」とお伝えください。

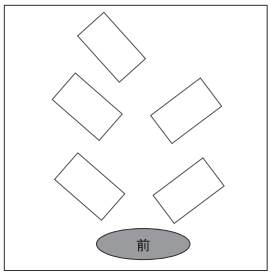
（資料 2）「自立と体験 1」担当教員用教案 2015　p.49

＜5＞机の配置

グループ学習を行う際、話しやすい状態を作るために、場の環境が大きな影響を与えます。
グループごとに島（多くの教室の場合、机を2つつけて使用）を作り、全員が前（教壇）に対して顔が見える状態を作ります（下図のように机を片仮名の「ハ」の字にします）。
机の配置の仕方と椅子の角度によって、教壇に背を向けた状態の学生ができると、指示が通らないだけでなく、表情が見えずグループの状態も把握しにくくなりますので、なるべく全員の顔が教壇から見える状態を作ってください。

例）





・2回目以降は、授業前に机のセッティングをしておくように指示しておくことをお勧めします。
・教室の環境によって、机の移動がどうしても難しい場合、机は動かさずに椅子を後ろに向けて、3人掛けの机1つを6人が囲んで座るようにご指示ください。ただし、グループが機能するために、学習環境も大きく影響を与えますので、机をグループ型にできるよう教室を変更することもできます。

（資料３）

2015年度「自立と体験1」授業の進め方の工夫　at：ランチミーティング（金曜12:30～13:10）

No	回	工夫　【　】は説明のための補足	ARCS
1	2	アイスブレイクのグループワークを、「へ～体験」「わ～体験」とし、プラスアルファとして「なんで？」「つまり・・・」「例えば」「ということは・・・」【を話させた】。	A1
2	2	最初のウォーミングアップ、リラックスに時間をかけると、あとはスムーズで学びが多い。	A1
3	2	【前回授業で実施した】「学ぶ力自己点検」の中で、特に意識したい【伸ばしたい】ものを1つ選んでバズ⇒アイスブレイクにした。	R1
4	2	ワーク①で【ポートフォリオに記載されている】「考えるヒント」だけでは筆の進まない学生がいたので、「自分の強みを活かすには？」と【 説明に】付け加えた。	R3
5	2	SAの学生との関わりを多くするように【授業を進めた】。	R2
6	2	【ワークの時間について】あと【残り】何分かを何度も周知した。	
7	2	SAに【初回の授業に】欠席した学生のフォローをさせた。	R3
8	2	模造紙作成のあと、全員立ち歩きの回遊をさせた。	A3
9	2	発表は【グループ全員でなく】1人または2人で行うようにした。	A3
10	2	グループ代表の発表者は、発表直前に決めた。	A3
11	2	模造紙作成時に、全員起立で【集中する雰囲気をつくって】行わせた。	A3
12	2	模造紙演習に入る前のレイアウト（椅子を寄せて立って行う）。	A3
13	2	模造紙作成のレイアウトは、ポートフォリオ通りでもオリジナルのものでもどちらでもOKと伝えた。	R2
14	2	【作成した】模造紙作品は、皆で写真撮影させた⇒LINEのグループ作りにつながった。	S2
15	3	ポストイットの使い方に戸惑いが見られたので【説明した】。	A1
16	3	冒頭の振り返りは、ミニ一問一答インタビューとした⇒発表リレーだと活性化しないかも【より活性化する方法を選んだ】。	R2
17	3	「ちょっと大きめの声を出していこう」と伝えた⇒リラックス効果ありかも。	A3
18	3	最後にSAに一言、3年生になって学びはどう変わった？というテーマで話してもらった。	S1
19	3	ポートフォリオのワーク④をワーク③の前に行った。ワーク②とのつながりのため【演習の順番を変えた】。	C2
20	3	大学への「要望」を学生にたずね、自大学意識を高める工夫をした。	R1
21	3	タイマー利用【グループワークで自主的に時間管理】。	R2
22	3	プロジェクタ利用【ワークの進め方などを投影】。	A1
23	3	スマイル＆秒数カウント【ワーク前にアイスブレイクとして実施】	A3
24	3	共有の時間を多くとった。	R2
25	3	【大学生について考える際に】児童・生徒・学生の違いからのアプローチをした。	R3
26	3	「なんとなく」の意味づけ【あいまいなままでなく考えることを促す】。	C1
27	3	大学の印象を個人記入する前に「高校と大学で違いがあると思う人？」と問いかけて挙手をさせた⇒スムーズに【個人記入に】入れた。	R3
28	3	グループ発表の順番は、最初に発表したいグループを挙手で決め、後は時計回り。最初のグループがスムーズにできると後に続く。	R2
29	3	【授業前に】SAとのポイント打ち合わせ。	
30	3	発表の回遊（時間短縮）【グループごとの発表ではなく作成物を回遊で共有した】。	
31	4	他者紹介、自由な場所、名札持ちながら、SAも一緒に。	R2
32	4	アイスブレイクで、ゴールデンウィークの過ごし方について話をしてもらった。	A1
33	4	ワークの前に、SAと学生でのデモをした。	A1
34	4	グループ替えをディスプレイに示した。	A1
35	4	【他者紹介のインタビューの際】名インタビュアーと大スター【の雰囲気でと伝えた】。	R2
36	4	【時間に余裕があったので】教室内の巡回をいつもより多くやった。	
37	4	教員への質問に回答書【をつくった】。	A1
38	4	「聴くポイント」を板書させて可視化した。	C3
39	4	【前回の授業で学習した】ノートの取り方の工夫を実践したかを問うて、行動することの大切さを伝えた。	S1
40	4	「ジョハリの窓」【授業の最後の】振り返りの最初に「教員のまとめ」【として話をした】。	S1
41	4	ほめシャワー【を授業の最後に実施して雰囲気を上げた】。	S2
42	5	音読させた。 音読のやり方。	A1
43	5	3人グループにTAを追加。	
44	5	進行役や役割など考えてもらった。	C2
45	5	授業開始前に軽くウォーミングアップをするようSAにお願いした。	R3
46	5	企画の発表の際、企画全体＋グループの一押しを1分間で【と発表方法を指定して】発表してもらった。	C1
47	5	発表はラウンドテーブルで。	A3
48	5	ごきげんのレベルを100点満点で自己採点【グループワークを行うには自分の気持ちをコントロールすることも大切と伝えた】。	A1
49	5	教室内をまわり、個別にアドバイスを行うようにした。	C1
50	5	ワーク①表がはやく完成したグループに【追加の課題として】6月と11月両方の歓迎企画を考えさせた。	C2
51	5	進め方の中心的論点を明確化。正解【のある話し合い】と、多様な答え【のある話し合い】の、2つの違いの実感。	C1
52	5	正解のあり・なし。 様々な答え、答えを作る、合意形成。	C1
53	5	推理ゲームと歓迎企画を分け、15分＋25分としてみた。作業にメリハリが出たように思う。	A3
54	5	推理ゲームと歓迎企画を結びつけるキーワードとして、「説得力」を用いてみた（アイデア＋説得力＝目玉）。	C1
55	5	「説得力」はevidence・basedが基盤であることを学生に伝えたところ、メモする学生が多かった。	C1
56	6	PPTは文字数をうんと減らしては？	A1
57	6	大教室で詰めて座らせる⇒ペアワークがしやすい、but暑い。	A3
58	6	図書館で実際に本を手にとって情報を得る意味【を説明した】。	S1
59	6	図書館の有効利用についてベタなコメント。	A1
60	6	【ワークの】時間管理を学生に任せた（まあ許せる）【範囲の進め方になった】。	C2
61	6	【ワークの目的を伝えて】クラスに説明をすることを念頭に聴く・訊く。	C1
62	6	組織内におけるJobRotationについて説明する機会にした。	A2
63	6	ハラスメントクイズは、グループ全体で確認するだけでなく、教室全体で確認したほうがよかった。	
64	6	【ハラスメントと関連させて】日本では罪刑法定主義的発想をすること【を説明した】。	A2
65	6	今更のあいさつの徹底。	A3
66	6	レポート提出の〆切＆【遅れた場合は翌週ではなく】研究室まで【持参するように伝えた】。	
67	7	【グループワークの】取り組み方宣言を「大きな声で」と伝えた。	A3
68	7	学科の特徴【を調べてくる】宿題を忘れた学生に、「学科代表としての役割があるので必ず何か言うこと」と伝えた。	C1
69	7	時間管理は学生に任せる（教員のせかしはなし）。	R2
70	7	「セクハラは海外ではどうですか」【という質問に対して】ハラスメント規準が文化により異なる可能性があること、しかし国際的な「人権」条項でもあることを説明に加えた。	A2
71	7	レポート返却にキャンディ付き。	S2
72	7	お菓子を配ったら急に元気に。	A3
73	7	発表は順番を指定せず、自主的にやってもらった。	R2

74	8	【ポスターのクラス代表を決める際に】投票箱を作った（１８歳選挙権と関連付け）。	A1
75	8	ポスターを描く時間を長くとった。	C2
76	8	「自分たちで時間管理をしよう！」と声をかけ、タイムキーパーを各グループに置いた。	R2
77	8	PC、スマホを使うことで失われるものは？と問いかけた。	A2
78	8	８回で授業が折り返しなので、改めて意識を持って授業に取り組むように伝えた。遅刻、レポートの完成度など。	C1
79	8	第６回提出物が１週間遅れ、分量、内容とも手抜きと判断された学生が１名いた。話をして、来週再提出を求めた。	C1
80	8	ハラスメントの授業で、福島県警のパワハラの例【を挙げて説明した】。	R3
81	9	ポスター作成に時間がかかるとのことだったので６０分取った。話し合い、下書き、作成それぞれの時間を最初に考えてもらった。	A3
82	9	【グループ代表を】投票で決めるにあたり、グループにより人数にばらつきがあったため、自作以外のBESTに投票してもらった。	S3
83	9	経過時間や残り時間をアナウンス。	
84	9	【ワークの】問題をよく読ませる時間を事前にとったら、早く【予定の時間通りに】戻った。	
85	9	欠席者・遅刻者対応、【なぜ遅刻したのか】詰め寄る！！	C2
86	9	遅刻が多かったので、チームで協力して実施する授業なのでマイナスの影響が出ると注意した。	R3
87	9	欠席が急増したので、ポスター作成にも影響ありと学生に注意した。	R3
88	9	「みんなは他の学生に良い影響を与えていることを忘れないで欲しい」と伝えた。	R3
89	9	５回休みの学生へ、【あきらめずに出席するよう】再度動機づけ。	C1
90	10	【アイスブレイクとして】発声練習を行った。	A3
91	10	【グループワークの雰囲気づくりとして】Manyポストイット計画。	A1
92	10	レポート課題は、前回から進化させること！！	C1
93	10	【人数が少なくなった】グループを合併した。	
94	10	人はなぜ書く？人はなぜ読む？というようなイントロが必要かなと思い、井上ひさしを引用した。	A2
95	10	前回レポート【の中に学生が記述していた内容】と、「自分や相手を大切にすること」を関連付けて説明した。	R3
96	10	フリートークの時間のやり取りで学びが深まっていたので、もっと時間を取りたかった。	R2
97	10	大切にした、された経験について、いくつか例をあげて説明した。	R3
98	10	クイズの答えを板書してもらって較べた。	A3
99	10	クイズの答え合わせにかなり時間をかけた。	
100	10	【今回の授業で実施できなかった】「ほめ言葉」は次回の冒頭で振り返りを兼ねて行う予定。	R3
101	11	気になるマナーについてSAに意見を求めた。	R3
102	11	グループ替えのタイミングは意外に重要！	A3
103	11	グループワークが２つあったので「進行役」を決めて、時間配分を任せた。	R2
104	11	ワークの内容　板書したほうが良い？	A1
105	11	前回の承認ワークを最後に実施した。	
106	11	ルールやマナーはどうしても制約的に働くので、自分を守る、他人を守る、気持ちの良い考え方や行動の「型」として説明した。	R3
107	11	自分が犯しそうなマナー違反【を話してもらった】。	R3
108	11	【授業テーマの「マナー」と】遅刻欠席せずに参加することの意味と関連づけて話した。	R3
109	11	「相手」が目の前にいないときのマナーについても考えてもらった。	A2
110	11	遅刻が多い⇒私は気にならないが先生に迷惑だからダメという学生に、実は授業の質にも関わるので学生も影響を受けると説明した。	R3
111	11	様々な立場のマナーの事例を伝えた。	R3
112	11	【マナーを】迷惑をかけない（マイナス）、敬意を持つ(プラス）で説明した【図解】。	A1
113	12	SA（３年生）にコメントしてもらった。	R3
114	12	WeakTie⇒広いつながりの大切さ。	A2
115	12	盛り上がらないグループへの声掛け 「話す授業だよ」「考える授業だよ」。	C1
116	12	自分の将来は「計画」することによって、ある程度コントロールすることができる。	R1
117	12	自分の将来の計画について、「目標を決めて行動する人」も「目標が決まらなくても今できることをする人」もどちらでもよいが、「目標が決まらないから何もしない人」は避けたいと説明した。	R1
118	12	大卒者への社会からの期待とは何か【と質問した】。	A2
119	12	【自分が興味のある人のインタビューシートを読むだけでなく】最も興味のない人のシートを読む。	A1
120	12	卒業生インタビューシートを用いたワークに、「この卒業生に尋ねたいことは？」を加えたところ、大学での学習と仕事のつながりを質問するケースがあった。	A2
121	13	【関心のある職業分野ごとに求められる】能力すべてを板書した。	C2
122	13	次に行うワークを板書した。	A1
123	13	メニューを板書した。	A1
124	13	【自己発見レポートの】スコアが低いことを気にする学生が数名いたので、声掛けが必要だった。	S2
125	13	求められる能力を黒板で共有／具体的に。	C2
126	13	「しゃべるのが得意じゃなければコミュニケーション力はないの？」と問いかけた。「聴く力」に優れた人もいる。	A2
127	13	前回の内容（卒業生の仕事）の振り返りを最初に行い、今日の内容につなげた。	R3
128	13	【自己発見レポートの】強みのスコアが全体に低い学生には、「経験の少なさ」「自分がよく分かっていない」ことが理由になっているかもしれないと伝えた。	C2
129	13	起業に関連させて、東大発ベンチャー光触媒チタンアペタイトの技術を日産が購入したことを説明した。	A2
130	13	個人も組織も学生もスポーツ選手もビジネスマンも、PDCAサイクル【が必要だと説明した】。	A2
131	13	ワーク②は３人以下で話してもらった。じっくり話せる、短時間で進められるというメリットがある。	R2
132	14	個人ワーク⇒２～３人発表⇒個人ワーク 【という手順で進めた】。	C2
133	14	１つ１つステップを踏んで実施した。	C2
134	14	苦しみたくないのか、楽しみたいのか　の問いかけをした。	A2
135	14	４年で終わらないキャリアデザイン観に少し触れた。	R1
136	14	「将来の目標設定は早ければ早いほどよい、具体的であればあるほどよい」というメッセージ。	R1
137	14	ブランド・ハプンスタンス・セオリーを先に読ませてみた【学生の様子を見て授業の進行の順番を変えた】。	R3
138	14	計画された偶然　クランボルツ自身の例。	R3
139	14	アイスブレイクで「小学１年生のころの夢は？」。	R3
140	14	ワークの意味を考えてもらった。	A2
141	14	目標と目的【意味の違いを説明した】。	A2
142	15	【最後の個人発表の際に】手段の目的化にならないように「伝える力」を途中でレクチャーした。	C1
143	15	【最後の個人発表に】プレゼンの練習の意味も持たせて、一言コメントや１分計測を行った。	C1
144	15	東アフリカを１か月一人で旅した学生の話を例に挙げた。	R3
145	15	楽しいのが勉強【と伝えた】。	R1
146	15	まとめとして、This is Your Lifeという詩を紹介した。	R1